

高度経済成長（日本万国博覧会）



- * 和田敏英収集史料265（22の3）「日本万国博覧会案内」（写真上）
- 同265（22の4）「EXPO'70日本万国博覧会ミニマップ」（写真下右）
- 同265（22の8）「BRITAIN EXPO'70（英国館資料）」（写真下左）

解説

1970（昭和45）年3月から9月にかけて、大阪の千里丘陵で「人類の進歩と調和」をテーマに77か国が参加して日本万国博覧会が開催されました。入場者は6,400万人で、高度経済成長期の最後を飾る一大イベントでした。

この万博のシンボルは岡本太郎が制作した「太陽の塔」でした。また、アポロ11号が持ち帰った月の石を展示したアメリカ館をはじめ、各パビリオンには、連日、入場を待つ人々の長蛇の列ができました。

写真は万国博覧会の各パビリオンで配布された資料や案内のパンフレット類です。

「万国博がやってくる 規模も内容もケタはずれの日本万国博」のキャッチフレーズや明るいデザインからは、高度経済成長期の雰囲気がよく伝わってきます。



- * 高度経済成長期に関する資料としては、山陽新幹線全線開通にむけた「山陽新幹線PRのしおり1」（リーフレット昭和44年45）や、当時、深刻な社会問題となっていた公害に関する「山口県の公害」（60衛生-105）などの行政資料が多数あります。